

追悼 烏雲先生 ご逝去

11月11日(火)の徳島新聞に報道されました通り、徳島県と中国の架け橋として交流に尽力された烏雲（日本名立花珠美）先生が内モンゴル自治区通遼市で亡くなられました。

烏雲先生は終戦時に御一家が集団自決するという悲劇に見舞われ、幼くして一人中国に残されました。しかし、苦難を乗り越え大学卒業し、内モンゴル自治区庫倫旗の中学教師となります。その熱心で愛情あふれる態度に対し、「ウバソク（モンゴル語で母）」と呼ばれて生徒達から慕われ、多くの優秀な人材を育てられました。その後日中の国交回復に伴い、先生は徳島に一時帰国されます。それを機に砂漠での植林活動、日本語教育の導入、中学生の徳島への派遣等を通じ、徳島と中国の友好交流に尽力されました。

この活動に対し、徳島県後藤田知事感謝状と記念品が送られることとなり、徳島県日中友好協会代表団が感謝状と記念品を持って、)訪中しました。植林活動に御尽力された先生にちなみ、感謝状は県産の杉の間伐材を紙状に加工したものに記され、記念品もヒノキ製

の遊山箱とされました。ただ、10月29日(水)に通遼を訪れた時は、すでに烏雲先生は入院されていて面会はできず、感謝状と記念品は当協会葭森会長から先生のお孫さんの馬森さんに伝達されました。その際、団員一同、心より先生のご回復をお祈りしますと伝えましたが、その願いは叶わず、逝去されました。

なお、ご逝去にあたり、駐大阪総領事館の薛剣総領事よりご遺族に対し、お悔やみの言葉を頂いております。

先生のご冥福を心よりお祈り致しますと共に、我々は先生の日中の平和と友好交流を願ってこられた先生の御遺志を受け継ぎ、民間交流の推進に取り組んで行く所存です。

徳島県日中友好協会